



愛媛大学経営企画部人事課 米澤

## 愛媛大学における実例 —SPOD-SDの取り組み—

- 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)
- SPODにおけるSDの定義
- SPOD-SDプログラムの開発
  - 1) SDプログラムの開発
    - ・大学人、社会人としての基礎力養成プログラム
    - ・学務系職員養成プログラム
    - ・次世代リーダー養成プログラム
    - ・高等教育トップリダー セミナー
  - 2) スタッフ・ポートフォリオ(職員業績記録)
  - 3) 職員キャリア・アップ・サポート

## 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education)

### —SPOD—



## 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education)

### —SPOD—



## SPODにおけるSDの定義

### 中央教育審議会によるSDの定義

・中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年1月28日）一将来像答申一  
「高等教育の質の保証を考える上では、教員個々人の教育・研究能力の向上や事務職員・技術職員等を含めた管理運営や教育・研究支援の充実を図ることも極めて重要である。評価とファカルティ・ディベロップメント(FD)やスタッフ・ディベロップメント(SD)等の自主的な取組との連携方策等も今後の重要な課題である。」とし、用語解説で、SDとは「事務職員や技術職員など教職員全員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を指す」としていた。

・中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」（平成20年12月24日）一学士課程答申一  
「大学経営をめぐる課題が高度化・複雑化する中、職員の職能開発（スタッフ・ディベロップメント）はますます重要となってきている。」と提言され、その用語解説では、SDについて、将来像答申中にあった「教職員全員」から「事務職員や技術職員など職員」に限定され、後段に「FDと区別し、職員の職能開発の活動に限定してSDの語を用いている」が加筆された。

「学士課程教育の構築に向けて」（答申）の用語解説  
【スタッフ・ディベロップメント（SD）】

事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を指す。「スタッフ」に教員を含み、FDを包含する意味としてSDを用いる場合（イギリスの例）もあるが、ここでは、FDと区別し、職員の職能開発の活動に限定してSDの語を用いている。

「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組であるファカルティ・ディベロップメント（FD）に対し、事務職員や技術職員などの職員（以下「職員」という）を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組をスタッフ・ディベロップメント（SD）として明確に区分

## SPODにおけるSDの定義

### SPODにおけるSDの定義の必要性

・SPOD加盟校から、SDへの取組意義及びそのプログラム開発の目的について、学士課程答申の定義は広義的であり、社会的に高等教育機関の質の保証が求められている中、具体的な職能開発の定義を明確にする必要があるとの意見があった。また、SPODにおけるSDの取組の意義の一つは、四国という地域の特性を活かし、四国内の規模の異なる大学等の職員が協働して共通的な職員養成プログラムを確立することである。このようなことから、各大学等が共通認識を持って職員養成プログラムを開発するために、あらためて、SPODにおけるSDの具体的な定義付けを行うこととした。

### SPOD-SD

SPOD-SDとは、地域の「知の拠点」である四国内の大学等の職員が組織的に共同開発した職員養成プログラムにより、『大学、短期大学、高等専門学校ジェネラリストとしての広汎な素養に加え、スペシャリストとして特定分野における能力開発を行うことにより、高等教育のプロフェッショナルを育成する』取組を指す。このSPOD-SDにおける職員養成プログラムをSPOD-SDプログラムという。

## SDプログラムの開発

- 1) 大学人、社会人としての基礎力養成プログラム
- 2) 学務系職員養成プログラム
- 3) 次世代リーダー養成プログラム
- 4) 高等教育トップリーダー セミナー

平成21年3月から合宿方式でSDプログラムを開発8回開催し、29機関、261名が参加した。

## 大学人、社会人としての基礎力養成プログラム

レベルⅠ（初任者）	レベルⅡ（中堅職員）	レベルⅢ（トップリーダー）
自大学業務概論	異文化交流	人材育成論・実践論
スタッフ・ポートフォリオ入門	プロジェクト・イノベーション実践	大学政策論
職員キャリア形成入門	メンター入門	メンター養成実践
ビジネスマナー入門編	ミーティング運営	高等教育経営
コミュニケーション入門	コミュニケーション実践	
情報科学基礎編	情報科学応用編	
コミュニケーション言語入門	高等教育概論	
自大学概論	リーダーシップ論	
高等専門学校概論	OJT実践	
タイムマネジメント論	プレゼンテーション実践	
リーダーシップ入門		
プレゼンテーション入門		

## 大学人、社会人としての基礎力養成プログラム

大学人、社会人としての基礎力養成プログラム レベル1

レベル	プログラム名	区分	単位	必修/選択/任意	科目(知識/技能/A)指定	到達目標	自大学開校	SPOD内開校	SPOD外開校(外部講師)	外部主催研修	
1	高大卒業修業計画	1	1	必修	I-A	1-A-1 進路選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-A-2 進路選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
	大学の学びのしくみに関する入門	1	1	必修	I-B	1-B-1 大学の学びのしくみに関する基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-B-2 大学の学びのしくみに関する基礎知識を習得することができる。	○	○			
	職業キャリア形成入門	1	1	必修	I-C	1-C-1 職業キャリア形成の基礎知識を習得することができる。	○	○	○		
						1-C-2 職業キャリア形成の基礎知識を習得することができる。	○	○	○		
	ビジネスパーソン入門	1	1	必修	I-D	1-D-1 ビジネスパーソンとしての基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-D-2 ビジネスパーソンとしての基礎知識を習得することができる。	○	○			
	2	キャリアデザイン入門	1	1	必修	I-E	1-E-1 自己分析の基礎知識を習得することができる。	○	○		
							1-E-2 自己分析の基礎知識を習得することができる。	○	○		
1-E-3 自己分析の基礎知識を習得することができる。							○	○			
1-E-4 自己分析の基礎知識を習得することができる。							○	○			
1-E-5 自己分析の基礎知識を習得することができる。							○	○			
1-E-6 自己分析の基礎知識を習得することができる。							○	○			
1-E-7 自己分析の基礎知識を習得することができる。							○	○			
1-E-8 自己分析の基礎知識を習得することができる。							○	○			
1-E-9 自己分析の基礎知識を習得することができる。							○	○			
1-E-10 自己分析の基礎知識を習得することができる。							○	○			
3	キャリアデザイン入門	1	1	必修	I-F	1-F-1 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-F-2 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-F-3 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-F-4 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-F-5 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-F-6 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-F-7 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-F-8 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-F-9 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-F-10 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
4	キャリアデザイン入門	1	1	必修	I-G	1-G-1 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-G-2 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-G-3 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-G-4 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-G-5 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-G-6 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-G-7 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-G-8 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-G-9 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			
						1-G-10 職業選択の基礎知識を習得することができる。	○	○			

## 学務系職員養成プログラム

1. 学務系職員養成プログラム(学生支援)  
学生相談入門、学生生活・課外活動支援入門など
2. 学務系職員養成プログラム(教務)  
カリキュラム概論、授業実施サポート論、免許・資格指導入門など
3. 学務系職員養成プログラム(就職支援)  
就職支援入門、キャリア支援入門、企業概論など
4. 学務系職員養成プログラム(入試・広報)  
入試広報入門、入試業務基礎、危機管理論など

## 学務系職員養成プログラム

学務系職員養成プログラム(学生支援) レベル1

レベル	プログラム名	区分	単位	必修/選択/任意	科目(知識/技能/A)指定	到達目標	自大学開校	SPOD内開校	SPOD外開校(外部講師)	外部主催研修
1	学生相談入門	1	1	必修	I-A	1-A-1 学生相談の基礎知識を習得することができる。	○	○		
						1-A-2 学生相談の基礎知識を習得することができる。	○	○		
2	学生生活支援入門	1	1	必修	I-B	1-B-1 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
						1-B-2 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
3	学生生活支援入門	1	1	必修	I-C	1-C-1 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
						1-C-2 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
4	学生生活支援入門	1	1	必修	I-D	1-D-1 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
						1-D-2 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
5	学生生活支援入門	1	1	必修	I-E	1-E-1 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
						1-E-2 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
6	学生生活支援入門	1	1	必修	I-F	1-F-1 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
						1-F-2 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
7	学生生活支援入門	1	1	必修	I-G	1-G-1 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
						1-G-2 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
8	学生生活支援入門	1	1	必修	I-H	1-H-1 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
						1-H-2 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
9	学生生活支援入門	1	1	必修	I-I	1-I-1 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
						1-I-2 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
10	学生生活支援入門	1	1	必修	I-J	1-J-1 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		
						1-J-2 学生生活支援の基礎知識を習得することができる。	○	○		

※1. 1単位は1科目を指している。ただし、2科目を履修するものには「2」を、全て履修するものは「3」を付記する。  
 ※2. 各プログラムの到達目標を有していることを上記が説明する場合は、達成目標のプログラムを達成したこの説明により、そのプログラムを履修したことがわかる。  
 ※3. 各プログラムの到達目標を有していることを上記が説明する場合は、達成目標のプログラムを達成したこの説明により、そのプログラムを履修したことがわかる。

## 次世代リーダー養成プログラム

1. 目的  
将来、事務職員がトップリーダー(役員)や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能(実践力)・知識(理論)・態度を段階的に養成する。
2. 達成目標
  - 【知識(理論)】  
大学等の経営に必要となる  
・高等教育に関する知識・理論(高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政)を応用することができる。  
・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。  
・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。
  - 【技能(実践力)】  
上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる  
・情報収集・分析を行うことができる。・企画策定・提案を行うことができる。  
・判断を行うことができる。・折衝・調整を行うことができる。  
・後継者育成を行うことができる。
  - 【態度】  
・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。  
・立場の違いを乗り越えて協力して働くことができる。  
・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。  
・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。
3. 募集人員 30名程度 4. 期間 2年 2泊3日×8回 5. 対象者 40歳以下
6. 選考 書類選考・面接を行い、受講を決定する。
7. 修了要件 ・全日程の9割以上出席。・修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

## 次世代リーダー養成プログラム

項目	1年目					
	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
科目	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎
履修状況	○	○	○	○	○	○
成績						
備考	このプログラムは、次世代リーダーの育成を目的として、学生が主体的に学習し、実践を通じてリーダーシップを身につけることを目指しています。					

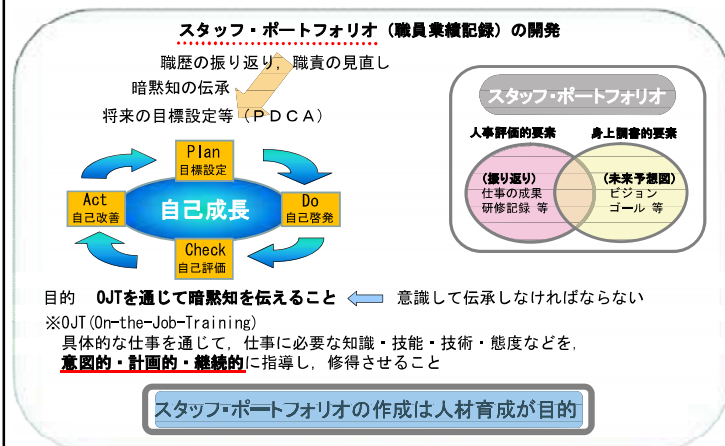
## 高等教育トップリーダー セミナー

**【目的】**  
大学等のトップリーダー（経営者・管理者）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な能力を修得する。

**【対象者】**  
大学、短期大学、高等専門学校の学長、校長、理事、副学長、事務局長、部長クラス

- 【プログラム】**
1. 教育論・高等教育論
  2. 高等教育史
  3. 教育法規
  4. 高等教育政策・行政
  5. 高等教育財政
  6. 経営管理
  7. 財務管理
  8. 危機管理
  9. 教育研究の水準向上
  10. 地域・諸外国との連携や貢献
  11. リーダーシップ論
  12. 学生支援論

## スタッフ・ポートフォリオ (職員業績記録)



## 職員キャリア・アップ・サポート

- モデルケースとして愛媛大学(国立)と松山大学(私立)間で実施
- 四国内の国立大学、高専において、新たなルールを策定
- 教職員キャリアアップサポート窓口設置  
(愛媛大学における「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業に係る研修生受入要項)

## まとめ「SPOD-SDとは」

### <SPOD-SDプログラム>

SPOD-SDプログラムは大きな3つの柱で構成されている。

1. SPOD-SD大学(職員研修プログラム)
2. スタッフ・ポートフォリオ(職員業績記録)
3. 職員キャリア・アップ サポート

